

ISO/TC211の黎明期の思い出

稲葉 和雄（一般財団法人日本デジタル道路地図協会）

ISO/TC211の活動が今年で25年になるため、『APA先端測量技術』誌で小特集を組むので、黎明期～発展期について何か書くように依頼されました。TC211の活動が25年にもなるのかと驚く一方で、初期の活動については、筆者にとっても思い出深い出来事がいくつかあるので、拙文を顧みず執筆を引き受けた次第です。ただし20年以上前のことで、資料も処分してしまい、若干記憶違いがあるかもしれませんが、ご容赦ください。

1. オーステンセン元議長との出会い

筆者は、1993年にドイツのケルン市で開催された、ICC第16回国際会議で論文発表を行いました。その時に、研究発表会に併設されて、世界各国の地理情報標準について調査していた空間データの交換標準に関する専門部会に委員（代理）として出席しました。座長のH.モエラリング教授は非常にアクティブな人でした。夜の8時ころまで議論をして「皆さん空腹になったので夕食にしよう」となったとき、ほとんどのメンバーが、今日の会議は終わったと信じたところ、

教授から「夕食が終わったら議論を再開しよう」と提案（指示?）があり、一同がっくり。その時、筆者の隣に座って不満げな表情をしていたのが、ノルウェーから参加のオーステンセン氏でした。当然、その場で彼とは仲良しになりました。

2. TCの設置投票

前項で述べたケルンでの専門部会の中で、フランスの委員から「ISOで近々地理情報国際標準のTC（専門委員会）設置の提案があるので留意しておいて欲しい」というコメントがあった。帰国後半年くらいして、TC設置の投票の通知があった（日本として1票）。議長候補者が3人出ていて、米国、フランス、ノルウェー（オーステンセン氏）でした。当時から、米国とフランスは、露骨に国際標準を自国の利益のため戦略的に利用している雰囲気だったため、比較的中立的と思われ、かつ友人でもあったため、日本としてはTC設置に賛成し、Pメンバーとして参加することとし（表1）、議長にはノルウェーに1票を投じました。

表1 ISO/TC 211（地理情報）のPメンバー国（2019年7月時点）

オーストラリア	オーストリア	ベルギー	カナダ
チリ	中国	チェコ	デンマーク
エスワティニ**	フィンランド	フランス	ドイツ
ハンガリー	インド	イラン	イタリア
日本	大韓民国	リトアニア	マレーシア
オランダ	ニュージーランド	ノルウェー	ポーランド
ロシア	サウジアラビア	セルビア	スロヴァキア
スロヴェニア	南アフリカ	スペイン	スウェーデン
スイス	タイ	トルコ	ウガンダ
英国	アメリカ合衆国		

** 旧スワジランド

3. ノルウェーでの第1回会議

1994年冬に、ノルウェーのオスロ市で第1回の総会が開かれ、筆者は、日本代表として1人で出席してきました。たまたま、フライトの関係で会議の前日がフリーになったので、オーステンセン氏に彼の職場（ノルウェー測量局）を見学させてもらえないかお願いしたところ、快諾してくれ、当日は私の宿泊していた安ホテルまで車で迎えに来てくれました。半日くらい案内してくれたのですが、今から考えると、国際会議の初日の議長役を翌日に控え、到着したばかりの暇そうな日本人を嫌な顔一つせず相手してくれたものだと、氏の紳士さ加減にいまさらながら感心させられます。11月のオスロは、気温は

零下十何度で1日中薄暗く、いつ夜になったか分からないくらいで、普段できない貴重な経験をしました。

4. 国内審議団体と国内委員会

第1回総会に出席して、ISOでの標準作成の進め方はなんとなくイメージが出来ました。国内での検討作業を進めるに当たって、審議団体を決めその下に委員会を設置して進めるのが普通だと学びました。審議団体としてどこが良いか迷い、(財)測技協(当時)に話をしたところ、快く引き受けてくれてホッとしました。国内委員の人選を中央大学の伊理正夫先生に相談したところ、何人かを推薦いただくと同時に委員長も引き受けていただきました(表2)。また、測技協からは、標準の検討を行うエキスパートとして、会員会社の若い技術者を推薦していただき大変助かりました。

表2 国内審議団体申請時におけるISO/TC 211国内委員会・幹事会名簿

所属は当時

〈国内委員会〉		
	(氏名)	(所属)
委員長	伊理 正夫	中央大学教授、GIS学会会長
副委員長	平井 雄	日本写真測量学会理事
委員	岡部 篤行	東京大学教授
委員	清水 英範	東京大学助教授
委員	碓井 照子	奈良大学助教授
委員	瀬戸屋英雄	通商産業省工業技術院
委員	辰野 忠男	海上保安庁水路部
委員	土肥 規男	建設省国土地理院
委員	鈴木 惣一	(財)日本測量調査技術協会専務理事
幹事長	稲葉 和雄	建設省国土地理院
事務局	川村 正一	(財)日本測量調査技術協会事務局次長
〈国内審議団体認定後に加わった委員〉		
委員	今井 浩	東京大学助教授
委員	柴崎 亮介	東京大学助教授
〈幹事会〉		
幹事長	稲葉 和雄	建設省国土地理院
幹事	平井 雄	日本写真測量学会理事
幹事	村上 真幸	建設省国土地理院
幹事	平田 更一	(株)パスコ
幹事	太田 守重	国際航業(株)
幹事	高橋 博将	アジア航測(株)
幹事	(GIS学会からの推薦者)	
幹事	鈴木 惣一	(財)日本測量調査技術協会専務理事
事務局	川村 正一	(財)日本測量調査技術協会事務局次長
事務局	有馬千代子	国際航業(株)

5. 総会誘致合戦と日本の存在感

第2回総会は、1995年夏にアメリカ合衆国のレストンで行われました。

総会は年に2回で、各大陸持ち回りが暗黙のルールで(表3)、「日本もそのうちホストしなければならないかな…」とおっとりと構えていたら、なんと第3回総会に韓国ソウル市が立候補し決定しました。アジアのトップは日本だと信じていたので、その時はショックでした。気を取り直して、次にアジアに回ってきた時で仕方ないかと考えていたら、中国の北京市に先を越されてしまいました。日本は、ようやく1999年秋の第9回総会を誘致できました。「総会を京都でやる」と発表したら、会場は一瞬どよめきが走った感じで、外国人はみんな京都に来たいのだなという印象を持ちました。

日本は、総会の誘致では後れを取りましたが、標準作成の実質的な作業においては、大いに貢献したと確信しています。当時は、1999年秋

頃までには国際標準は完成しているだろうと考えていました。1900年代最後の会議を日本でホストし、地理情報の国際標準が完成したら、その標準を、地球温暖化防止京都会議（COP3）における京都議定書（1997）に倣って、“Kyoto agreement”と呼ぼうなどと、エキスパート間で話していました。その時は、25年も作業が続くとは想像もしていませんでした。

TC211の黎明期には、国際標準作成の手順・段取りや、自国に有利な標準作成の駆け引きなど何も知らず、今から考えると手探りの状態で

進めてきました。国内委員会の先生方のご指導・ご支援、一緒に国際会議に行った測技協の若きエキスパートの尽力、そして国土地理院の数少ない理解者の協力を得て、黎明期の数年間、日本の存在感を示せたと思っています。

■参考文献

稲葉和雄・金窪敏知・金澤敬・小林基夫・津沢正晴・樋口米蔵・正井泰夫・森田喬（1994）：国際地図学協会（ICA）第16回国際地図学会議報告. 地図32巻 2号, 28-44.

表3 ISO/TC 211総会の開催実績

回	時期	開催国／都市
1	1994年11月	ノルウェー／オスロ
2	1995年8月	アメリカ合衆国／レストン
3	1996年5月	大韓民国／ソウル
4	1997年1月	オーストラリア／シドニー
5	1997年10月	英国／オクスフォード
6	1998年3月	カナダ／ヴィクトリア
7	1998年9月	中国／北京
8	1999年3月	オーストリア／ウィーン
9	1999年9月	日本／京都
10	2000年3月	南アフリカ／ケオウタウン
11	2000年9月	アメリカ合衆国／レストン
12	2001年3月	ポルトガル／リスボン
13	2001年10月	オーストラリア／アデレード
14	2002年5月	タイ／バンコク
15	2002年11月	大韓民国／キョンジュ
16	2003年5月	スイス／トゥーン
17	2003年10月	ドイツ／ベルリン
18	2004年5月	マレーシア／クアラルンプール
19	2004年10月	イタリア／ローマ
20	2005年6月	スウェーデン／ストックホルム
21	2005年9月	カナダ／モンREAL
22	2006年5月	アメリカ合衆国／オーランド
23	2006年11月	サウジアラビア／リヤド
24	2007年5月	イタリア／ローマ
25	2007年11月	中国／西安

回	時期	開催国／都市
26	2008年5月	デンマーク／コペンハーゲン
27	2008年12月	日本／つくば
28	2009年5月	ノルウェー／モルデ
29	2009年11月	カナダ／ケベック
30	2010年5月	英国／サウサンプトン
31	2010年12月	オーストラリア／キャンベラ
32	2011年5月	オランダ／デルフト
33	2011年11月	南アフリカ／センチュリオン
34	2012年6月	フランス／トゥールーズ
35	2012年12月	サウジアラビア／ジッダ
36	2013年5月	大韓民国／ブサン
37	2013年11月	アメリカ合衆国／レッドランズ
38	2014年6月	ドイツ／ベルリン
39	2014年11月	中国／深圳
40	2015年6月	英国／サウサンプトン
41	2015年12月	オーストラリア／シドニー
42	2016年6月	ノルウェー／トロムセ
43	2016年12月	アメリカ合衆国／レッドランズ
44	2017年6月	スウェーデン／ストックホルム
45	2017年12月	ニュージーランド／ウェリントン
46	2018年5月	デンマーク／コペンハーゲン
47	2018年11月	中国／武漢
48	2019年6月	スロヴェニア／マーリボル
49	2019年12月	日本／さいたま大宮（予定）